

Gohon News  
ごぼんはんだより

## 御文をいただく 其の五〇

### 五帖目第五通⑩

信心獲得すというは、第十八の願をこころうるなり。この願をこころうるというは、南無阿弥陀仏のすがたをこころうるなり。このゆえに、南無と帰命する一念の処に、発願回向のこころあるべし。これすなわち弥陀如来の、凡夫に回向しますところなり。これを『大経』には「令諸衆生功德成就」とけり。されば無始已来つくりとつくる悪業煩惱を、のこるところもなく、願力不思議をもって消滅するいわれあるがゆえに、正定聚不退のくらいに住すとなり。これによりて、煩惱を断ぜずして涅槃をうといえるは、このこころなり。此の義は当流一途の所談なるものなり。他流の人に対して、かくのごとく沙汰あるべからざる所なり。能く能くこころうべきものなり。あなかしこ、あなかしこ。

ほんこはん つとまります

開催日 10月31日(火)午後2時より11月1日(水)午後4時まで

講師 松井勇さん(南砺市)

毎年毎年、絶えることなく勤められてきたホンコハン 親鸞聖人のご命日を縁として勤められてきたホンコハンが勤められてきた歴史の流れに乗りませんか?

※10月31日夜 おやこのつとByほんこさんをつとめます

後段の「此の義は当流一途の所談なるものなり。他流の人に対して、かくのごとく沙汰あるべからざる所なり。能く能くこころうべきものなり。」の文章をいつも読んでいて思わせていただくのは、浄土真宗において念仏一筋と選ばれてきたわけはこれが正しい、これは間違っているという正偽をあきらかにしているという選びではなかったんだろうなということですが、私たちはどうも正しいという風に依存するといつの間にか偽なるものを排除していったり、私から見れば主張する人に対して攻撃してしまうことがあるようです。日本の仏教には数え切れないくらい宗派があるとされています。それは後段の「此の義は当流一途の所談なるものなり。他流の人に対して、かくのごとく沙汰あるべからざる所なり。能く能くこころうべきものなり。」の文章をいつも読んでいて思わせていただくのは、浄土真宗において念仏一筋と選ばれてきたわけはこれが正しい、これは間違っているという正偽をあきらかにしているという選びではなかったんだろうなということですが、私たちはどうも正しいという風に依存するといつの間にか偽なるものを排除していったり、私から見れば主張する人に対して攻撃してしまうことがあるようです。日本の仏教には数え切れないくらい宗派があるとされています。それは

はお釈迦さまのどのことなのの經典を中心にして考えていくかという歩みの中で多くの宗派が生まれてきたことでしょう。数え切れなだけの宗派がある中で自分の正当性ばかり主張していくと争いごとになってしまいうことでしょう。日本は戦争放棄と憲法にうたがってあつて他国と争うことを避けてきました。他国とは争わなくても国内でいろんな争いごとが増えてしまします。そうなってしまふと本当に悲しいことになってしまいます。お互いを認め合いうことが大事なのでしよう。正しい間違えの選びではないけないことなのでしよう。さて、私たちは大切なことを選ぶときどんなふう

に選べばよいのでしょうか? いろんなふうには私たちが先輩方は選んでこられたのでしょうか? 訪ねてみる必要があると思います。

#### 【お知らせ】

お寺の横にある畑に銀杏の木があります。10月になると実が徐々に実りだし墜ちていきます。そこで皆様にお裾分け、自宅で食べられる分に限り銀杏をご自由に拾っていただきます。

(お寺に声をかける必要ありません)

# 皆様のご支援により 「第7回 夏休み！高岡で遊ぼう！」も 無事開催することができました 本当にありがとうございました

ご支援もいただいた皆様に今年いただいた笑顔のお裾分けです

※収支報告につきましては後日改めてさせていただきます



第7回夏休み！高岡で遊ぼう！実行委員会

高岡市丸の内2-15 真宗大谷派高岡教務所内 TEL 0766-23-0464

## 【第7回夏休み！高岡で遊ぼう！開催趣旨】

今年も「夏休み！高岡で遊ぼう！」を開催させていただきます。  
「東日本大震災」から7年という時を迎えますが、毎年のように各地では自然災害による被害が発生しています。しかし、人間の過信が引き起こした、福島第一原子力発電所の事故が起こった「福島」では、自然災害とは異なる、今までにはない不安や問題が存在しています。決して目に見えない放射能は、その被害だけではなく、疲弊や分断を生み出しています。

「子どもを何も気にせず外で遊ばせたい」  
「福島の海には二度と入れさせたくない」  
「周りの批判を気にして、放射能の話題を口にできない」

これまで私たちは、保養事業を通して、様々な方の姿や声に出遇わせていただきました。保養事業がどれだけの具体的な効果があり、参加されてきた方の不安を和らげてくれたのか、私たちに正直分かりません。しかし、

「今までお世話になったから、来年はスタッフとして来るね！」  
「将来看護師になって、富山の病院で働きたい！」

何度も参加してくれた子どもたちからは、こんな嬉しい声が届いています。  
このような子どもたちの声が届く限り、今年も思い切り遊ぶ場をプレゼントできればと思います。

## 今年いただいた声

これは保護者の方々と日程中連絡をとるなかでいただいた声や終了後アンケートでいただいた声を掲載させていただきます

震災から、7年経ちますが、放射能などの事では、やはり今も変わらなく心配しかありません。そんな中、とても空気のキレイな所で貴重な体験をありがとうございました

帰りの車の中で「また来年も行きたいな」「友達ができたら」「○○ちゃんがね……」など娘は話が止まらなくなりました。本当に楽しかったからだと思います。

家に帰ってきた次の日ののですが、夕飯の時に「食前のごぼはんを唱えてからご飯を食べ始めたので驚きました。たまたま正信偈も口ずさむ時もあり、富山で身に付けたことを本人なりに実践しているようです。

保養というと、自然の中で日頃からのストレスも解放されて自然とともに思いっきり遊べたと思いがちで、自分もそんな思いがちなですが、今回はそれを超えて、それ以上に自分たちの日常生活（自分の荷物を自分でまとめ、移動。公共交通機関での移動。おつとめの意味。自分達が生活する場所の整理）の当たり前を自然に教わった気がします。今後このような大事な機会が未永く続き、子供達の未来に希望が満ちるよう心から強く願います。

福島市内では、7年前がうそのように感じられる程、除染がすすみ、外でのスポーツも時間を気にせず出来るようになってきています。ただ、校庭の地中に埋めた、汚染された土の取り出し作業が今年から行われて、また校庭が使用出来なくなるようです。忘れそうで、忘れられない放射能を表す機械があらでらにありますが、結果を見ては何でもなければ安心します。○○が成人しても続く検査です。目に見えない不安はいつもあります。このような高岡教務所の受け入れがある事に感謝しています。

私も参加したくなってしまったので、沢山の写真の数々、そして、沢山の思い出、本当にありがとうございました。○○がまた来年も楽しみにしています。まだまだ必要と感じる保養。第8回の開催をお願い致します。高岡教区の皆様、そして、お野菜、お米をくださいました。団体の皆様、本当にありがとうございました。

元気に帰ってきました。来年はお手伝いとして参加したいと決まっています。

少し楽しくなって帰ってきたような感じがします。よくしていただいていた感謝の気持ちでいっぱいでした。子供に、少しずつ滞在の出来事を楽しみました。さっき、お風呂に入って、すぐに布団にバンキューで爆睡してしまいましたが、自分の事は自分でやろうとする姿が何となくいい、開心しました。

震災から7年経っていますが、まだまだ保養の必要性は感じています。準備から今日に至るまで、たくさんの方々の力と努力が繋がって、形になり貴重な出逢いに感謝します。

大変お世話になりました。夜遅くまで思い出話をして、第2部は明日するそうです。だいぶ聞いたのですが……本当にありがとうございました。

## 今年いただいた声

これは保護者の方々と日程中連絡をとるなかでいただいた声や終了後アンケートでいただいた声を掲載させていただきます

震災から、7年経ちますが、放射能などの事では、やはり今も変わらなく心配しかありません。そんな中、とても空気のキレイな所で貴重な体験をありがとうございました。

帰りの車の中で「また来年も行きたいな」「友達ができたら」「○○ちゃんがね……」など娘は話が止まらなくなりました。本当に楽しかったからだと思います。

震災から7年経っていますが、まだまだ保養の必要性は感じています。準備から今日に至るまで、たくさんの方々の力と努力が繋がって、形になり貴重な出逢いに感謝します。（抜粋）

はじめにいつておきますが、上記のコメントは福島にお住まいのすべての人がそう思っているということでは決してありません。私がかかっている福島の子ども達を迎えて行っている法要事業の参加者の親御さんたちの意見の一部です。でもいえることはほうしゃのうから子ども達を守りたいと思っておられる方々は少なくはないということです。日々過ごす中で東日本大震災のことや、原子力発電所で重大な事故が起こったことを私たちは忘れ去ろうとしていきます。未だ未だ終わっていないのです。こういう状況を踏まえて共に生きるということを考えていきたいと思っています。



発行 真宗大谷派 常入寺

電話 九三〇一〇一六 富山市東老田七八七  
（〇七六）四三六〇八一六  
住職携帯 〇九〇一三七六四一三九八三  
発行責任 青井 和成



LINEはこちらから

